

## 函館市長などからの大間原発に関する国と事業者への要望内容の説明

日時：平成24年10月4日（木）15：00～

場所：道庁本庁舎3階 知事会議室

（函館市長）

高橋知事には、大変、委員会開催中という大変お忙しいところ、時間をお取りいただきまして、本当にありがとうございます。

また、日頃、道南の地域振興のために、大変、ご支援・ご協力をいただいております。感謝申し上げたいと思います。

今日は、大間原子力発電所の無期限凍結というですね、私たち道南地域の願いに、知事にもぜひ、ご理解をいただくために、お願いに参上いたしました。

函館市以外のほかに北斗の市長と議長、それから七飯町の副町長と副議長、また、道南の経済界を代表して商工会議所の松本会頭にも同行していただいているところでもあります。

私達は、あの福島原発の3.11の事故の凄まじさを見て、原子力発電の安全神話というものに大変、疑問を抱き、少なくとも、原発を新たに建設するということについては、慎重であるべきと、当然、当分凍結すべきだということを考えて、国や電源開発に大間原発の無期限凍結ということを要請してまいりました。

多田副知事にも私と一緒に行っていただき、大変ご協力をいただいたところであります。

福島では、いまだ事故の原因さえ究明できず、そしてまた、原子炉の内部の状況さえ把握できず、収束の見込みというのは全くたっていない。そういう状況にあり、また、16万人の福島県民の皆さんが故郷を奪われ、そしてまた、避難をしているという状況でございます。

道南においても、去年の福島原発事故の影響で、観光をはじめ一次産業もそうですが、経済が大きな打撃を受けて、ようやく今、元に戻りつつあるという状況であります。

道南は、大間原発から最短で23km、大間と函館の間は、18kmしかありません。

晴天時には、工事現場が見えるほど至近距離にありまして、間は海ですから遮るものは、まったくないという状況であります。

大間原発の50km圏内の人口というのは、青森側が9万人、道南側は37万人という数でありまして、大間原発の建設の影響というのは、青森側より北海道側の方が、はるかに大きいものがあるわけであります。

道南住民が全て、そのことについての不安を感じております。

そうした中で、国は大間原発の建設再開を容認をして、電源開発は10月1日、建設を再開したところであります。

福島原発事故以前と同じように、北海道側には一切の説明もなく、そしてまた、

意見を聞くこともなく、一方的に「再開をしました。ということを通告しに來ただけであります。

福島原発事故以前の安全神話の中で、原子カムラともいわれる人達が進めてきた建設許可を改めて見直し、検討することもなく、慌てて、震災以前の許可ということ根拠にして、私達、街の声を全く無視して、そして、何ら急ぐことのない大間原発の新設を、電力需給にも影響を与えないものをですね、建設再開ということ強行したということは、私たちとしては、誠に遺憾であって、到底容認できるものではありません。

そもそも、大間原発には、他の既設の原発と違って、多くの問題点があります。

一つ目は、再稼働と違って、電力需給の問題を生じないことです。急いで建設しなくても何も困らないわけであり、単に、原子力の比率を高めるということだけしかないわけでありまして、現時点、将来も含めて、その必要性に大きな疑問があつて、それに対する答が明確になされていないところであります。

二つ目は、世界初のフルMOXを100%使う原子炉だということで、これは大きな危険性というものが指摘をされているところであります。

三つ目は、津軽海峡が国際海峡であるということでありまして。

領海は通常、12海里でありまして、22～23km、日本の領海があるわけですが、津軽海峡の場合は、大間からの領海というのは、3海里、5km ちょっとしかありません。

しかもこれは、国際海峡であり、国籍不明船だとか、不審船だとか、いろいろなものが自由に通過することができるわけで、5km であれば、ちょっとしたことで、スッと大間の方に入って行って、もしやのことがあるかもしれないというような危険性があるわけで、国の安全保障上も、極めて大間については、疑問があるわけでありまして。

四つ目は、大間原発では、この使用済み核燃料というのは、20年分しか保管できません。その処理の方法というのは、今のところまったく見通しもなく、また、最終処分場の引受手なども、あの福島原発の状況を見て、10万年も保管してくれる自治体なんてものはあるはずもないわけでありまして、その危険な廃棄物が大量に大間に蓄積されていくことになります。

五つ目は、大間原発のすぐ近くには、建設にあたっての安全審査において考慮されていなかった活断層の存在が指摘をされているところであります。

こうした多くの疑問に目をつぶって、そして、福島原発の事故後、たった一年半で、建設を再開することは、私どもは、もう暴挙としかいいようがありません。

原発の新設というのは、あの世界を震撼させた福島原発の大事故を起こした私たちの世代が、判断することではないというふうに、私たちは思っています。他の安全なエネルギー開発の状況を見ながら、少なくとも30年ぐらい後の将来世代の判断に、この原発の新設という問題は、委ねるべきだというふうに考えているところであります。

今時点での、この大間原発の建設再開というものは、私どもとしては、到底受け

入れがたく、住民の安全安心と地域を守るために、改めて、無期限凍結ということ  
を求めてまいりたいと思っているところでもあります。

高橋知事には、ぜひ私ども道南地域の思いを、十分お酌み取りをいただいて、政  
府や電源開発に対して、厳しく対処をしていただいて、行動していただくようお願い  
を申し上げる次第でございます。

私どもは、今月の15日に上京をいたしまして、政府と電源開発に申し入れをし  
たいというふうに考えているところでもあります。この申入書については、渡島の1  
1市町村全部が名を連ねておりますし、また、議会、経済界、農協、漁協、観光協  
会、さらには、町内会などの住民組織が、すべて名を連ねている、そういう申し入  
れを持って、今日は人数を絞ってまいりましたけれども、各界大挙して上京をして、  
このことを無期限凍結ということ、そして、建設をもう一度取りやめるということ  
を訴えてまいりたいと考えております。

ぜひ、知事にはご支援いただくようお願いを申し上げる次第であります。

(知事)

お疲れさまでございます。

冒頭のお話しがありましたので、私からまずお返ししてよろしいでしょうか。

(函館市長)

はい。

(知事)

今日は大変お忙しい中、函館市長、北斗市長、七飯副町長さん、皆様方おそろい  
でこうやって道庁までお越しいただいて、誠にお疲れさまでございます。

大間原発の問題につきましては、私どもからも先月のしかるべきタイミングにも、  
電源開発を呼びまして、政府の枝野大臣の発言が出た直後だったと思いますが、電  
源開発のしかるべき者を呼びまして、私どもの方から、改めて、位置づけなり必要  
性なり安全性なりについて説明を求めたわけではありますが、私どもが納得できるよ  
うな内容ではなく、これまでの線を出たものではございませんでしたので、建設再  
開というのは時期尚早ではないかということの申し入れをさせていただいた経緯な  
わけであります。

その後、10月1日になって、今市長からお話しがございましたとおり、私ども  
の方にも原発のしかるべき方が来られて、再開をいたしましたというご報告があっ  
たところでございます。

この問題につきましては、本当に函館市民をはじめ、道南の皆様方のお気持ちとい  
うのは、ご不安のお気持ちというのは、私は、十分に理解をしているところでござ  
いまして、このまさに第3回の道議会定例会におきましても、各会派からこの問題  
について様々な議論がございました。昨日も予算特別委員会の知事総括という総括  
質疑が午後ずっとあったわけですが、その中でも、大間について各会派か

らご指摘があったところでございます。

その中でも、私からご答弁を申し上げたところでございますが、この今回の大間原発は、今市長が仰られた、フルMOXという形の発電形態を想定した原発でございますが、そのことについての要するに国が、今、新たなエネルギー政策を出しつつあると、出つつあるというよりは、まだ、年末に向けていろんな調整をしておられるというふうに理解をしておりますが、そのエネルギー政策の中における原発ゼロということを仰ったり、また、核燃料サイクルについては、どうするかということが併存しているような、あまりクリアカットになっていないような、国のエネルギー政策の中において、まさにフルMOXの大間原発というものの位置づけ、核燃料サイクルの政策の中において、どのような位置づけをするかということが、私ども国民には、よくわからない部分であります。その位置づけが明らかになっていない。

それから、スタートしたばかりの原子力規制委員会における安全対策ということについても、必ずしもまだ十分なことが行われているわけではない。田中委員長は、今、フル回転で、色々やっているようですが、先般の記者会見で、活断層の議論、これは大間に限らず、今、志賀原発とか色々なところが話題になったようでありますけれども、そういったことについても、しっかりと調査をしなければならないというご発言なども出ている中で、今回の工事再開の判断というのは、大変遺憾であるということをおもひながら、私どもも議会の中で、述べさせていただいたところでございます。

私どもといたしましては、今、申し上げたことに尽きるわけですが、道議会でも、先に、全会派一致の意見書というものがございまして、ご覧になっているかと思っております。

明日が最終日でございまして、明日の最終日に向けて、各会派が、また、話し合いをして、道議会としての意見、昨日の質疑でだいたい見えてはいるのであります。まとめられることと、私は、思っているところでございます。そういった道議会のご意向も踏まえて、議会終了後できる限り早く、私どもといたしましても、国に対して、大間原発というのは、そもそも国のエネルギー政策の中で、核燃料サイクルの中でどのような位置づけなのかということ、そして本当に必要なのかということの説明をしっかりといただかなければ、我々としては納得できないということ、それからその安全性について、新しくスタートした原子力規制委員会において、いずれにいたしましても、運転開始前の厳格なる審査というのは、全ての原発に対するルールでございまして、その厳格なる審査、大間原発の安全性についての原子力規制委員会の審査ということについて、しっかりと申し入れをしていかなければならない、このように思う次第であります。

それからもう一つは、やはり、情報提供ということにつきまして、これまでも再三私どもからJパワー、電源開発に求めてきたところでありますが、どうも、やはりこちらから声をかけない限り、なかなか情報をこちらの方には提供してくれないというところが目立ってきておりますので、事業者からの情報提供などについて、立地周辺住民の方々のもとよりでございますけれども、函館市民をはじめとして、我々

道民にも、もっときめ細やかな説明責任を果たすように、しっかりとした情報提供をしていただくよう、強く申し入れしていかなければならない。そして、節目節目では、特に詳細なきめ細やかな説明を求めていかなければならない。このようなスタンスでございますので、是非、皆様方の気持ちを踏まえ、これからも情報共有を図っていきたいと思います。本日は、誠にお疲れ様でございます。

(函館市長)

よろしく申し上げます。

まだ、時間よろしいでしょうか。せっかく来ておりますので。

(北斗市長)

高橋知事には、第3回定例道議会開会中の大変お忙しい中、時間を割いていただき、大変ありがとうございます。また、日頃から地域のために色々なご支援をいただきまして、この場をお借りしまして、改めて感謝を申し上げます。

大間原発の問題に関しましては、これまで、マスコミ報道等で北海道、高橋知事も私たちと同じような認識で対応してくれているということで、大変心強く思っております。今、お話をお聞きしましたし、また、道議会の方でも同じような思いを持っているということで、本当に心強く思っているところでございます。

大間原発の問題に関しましては、今、工藤市長が申し上げましたとおりでございます。若干重複するかもしれませんが、福島第一原発の事故も踏まえて、今、原子力規制委員会で新しい安全基準を作ろうとしておりますが、未だできておりません。そういう中で、何でこの時期に急いで電源開発が、建設工事の再開をしなければならないのかということに対して、その必要性とは、一体何なのだろうというのが、まず、率直な疑問なのですけれども、私たちのその疑問に対しては、会社として判断した結果だとか、電力の安定供給上重要な発電所であるとか、それから、国が容認したとは言ってませんが、国の後ろ盾があるような、そういうような回答しかない訳ですから、これは、私たちの疑問には、全く答えていないというふうに私どもは理解しております。それに加えて、函館市というのは、UPZ圏内にある地域ですけれども、これまで説明もなく、10月1日に常務さんがいらした時には、もう建設工事再開ありきと、その報告、通告だったように私たちはとらえておりまして、これについても、極めて残念なことだと思っております。

私ども北斗市は、大間原発から40kmから60km圏内で、住宅があるところは、おそらく40kmから50km圏内です。函館市さんとは、少し事情が違いますけれども、福島第一原発事故の放射能の拡散状況というのを見ると、北北東に40kmから50kmはもちろん入っている訳ですから、当然、あのおりいくと、風向き等で違うかもしれませんが、私どもの町も非常に大きな被害を受けるということですから、これは、私たちも黙っているわけにはいかないということで、これまでも函館市さんと連携を取ってやってきたのですが、今後とも、函館市さんを中心に、渡島全体でこの問題を訴えていかなければならない。

特に、国と電源開発に関しては、建設工事再開の方針の撤回、それから、無期限の凍結というものを訴えていきたいと思っておりますので、今、知事から大変心強い発言がございましたので、今後とも、どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

(函館市議会議長)

函館市議会議長の能登谷でございます。いつもお世話になっております。

先日、我々市議会といたしましても、建設無期限凍結の決議をいたしました。

この決議に対しまして、道南圏の議会も全てが賛成の方向の中で、賛同させていただきます。

我々も大きな声を出して、やはり、無期限凍結を訴えていきたいと思っておりますし、知事からは、今、力強いお言葉をいただきましたので、道議会も含めて、我々市議会と一緒に行動していただければありがたいと思っております。よろしくお願ひします。

(函館商工会議所会頭)

会議所の松本でございます。いつもお世話になっております。

今日はまた時間をいただきありがとうございます。経済界としてお願ひにまいりました。1点は、函館地域というのは、大変、食のブランドというものを長い時間をかけて作り上げてまいりました。一つは函館のイカでありますし、あるいは、戸井のマグロであります。それから、七飯町のりんごでありますし、北斗市のコメであります、一次産業を源流とした加工業、つまり、水産加工業と観光が基幹産業の地域でございます。

仮に、大変毒性の強いフルMOXの原発が稼働されるようなことがあれば、温水が常時海峡に注がれることになりますから、漁場としての問題、あるいは、原発ができることによる風評被害というものによるブランドの後退というものを大変懸念しております。どうぞこの点も地域の大変な経済の問題でございますから、知事には、ご理解ご協力をいただきたいと思いますとお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

(函館市長)

今日は本当にお忙しいところありがとうございました。ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。